



arcserve®

リアルタイムにデータを複製

Arcserve® Replication Arcserve® High Availability

遠隔データ保護・災害対策にお悩みの方へ



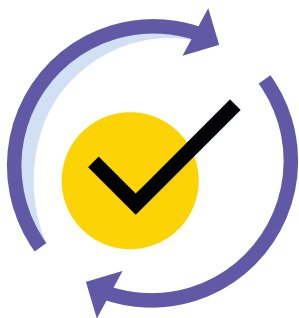
定期的な作業が大変で重要なデータを
バックアップできていない



障害があるとすぐにユーザ部門から
クレームがきて大変



細い回線でも
遠隔地に確実にデータを送りたい



NEW

Windows Server 2025 対応

レプリケーションの実際の活用イメージ

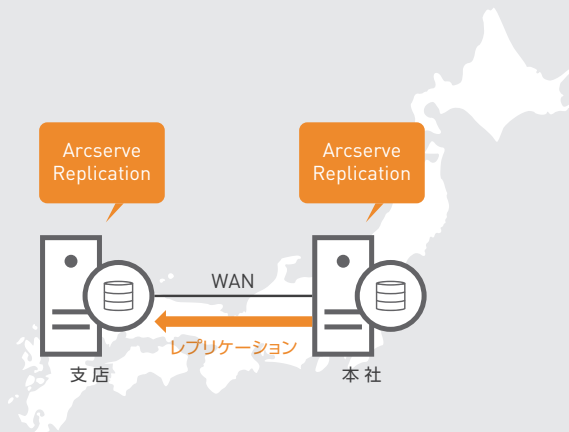
遠隔地にデータを安全・簡単に転送

「もし洪水でサーバ室に浸水してしまったら…。」「地震でビルが倒壊してしまったら…」そんな事態に備え遠隔地へのバックアップは欠かせません。Arcserve Replication / High Availabilityなら、LAN に比べて信頼性の低いWAN 回線でも、データを難なく転送可能。遠隔地のサーバに自動でデータを複製できるので、毎週のテープ搬送に比べ災害対策の手間を大きく減らすことができます。さらに、障害時には複製サーバを本番サーバの代わりとして使う事で業務の停止時間を短く抑えられます。

こんなサーバ管理者におすすめ

- ▶ サーバの災害対策は行いたい、徹底して予算を抑えたい
- ▶ 少なくともデータだけは遠隔地にバックアップしておきたい
- ▶ テープ搬送で災害対策を行っているが、運用コストをさらに抑えたい

復旧時間	短い	対災害	強い	システム保護	なし
------	----	-----	----	--------	----



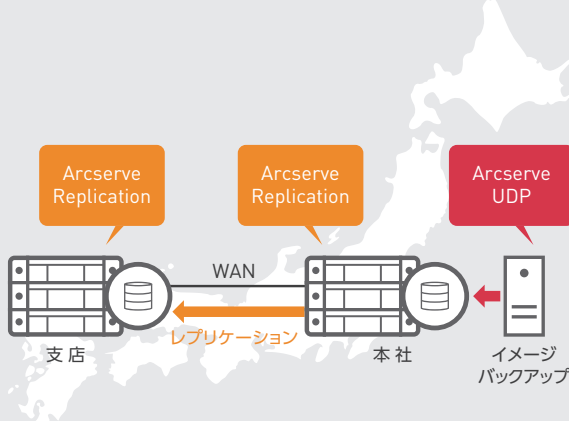
災害発生時でも、遠隔地でシステムを復旧し運用を継続

災害に備えて、システム全体のバックアップデータを遠隔地に保護したい。しかし、バックアップデータを丸ごとWANに流してしまうのはちょっと…。そんな時にはArcserve® Unified Data Protection (UDP) のバックアップデータをArcserve Replicationで災害対策サイトにレプリケーションします。Arcserve UDPでは継続的な増分バックアップを行うため、レプリケーションされるデータ量はわずかです。さらにArcserve Replicationの帯域制御機能や導入前のアセスメント機能など豊富な機能で帯域幅が限られた環境でも安心してご利用いただけます。

こんなサーバ管理者におすすめ

- ▶ システム全体のバックアップデータを遠隔地に保存したい
- ▶ 災害時に遠隔サイトでサーバを復旧したい

復旧時間	普通	対災害	強い	システム保護	強い
------	----	-----	----	--------	----



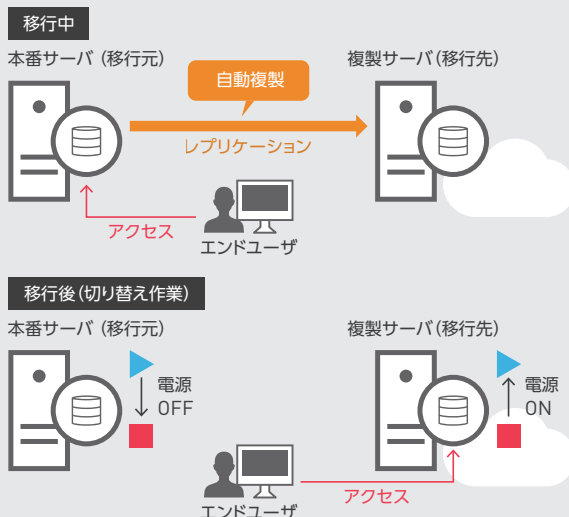
業務を継続したままで移行を実現

システム環境の移行には、多くの工数とコストがかかることが懸念されますが、Arcserve Replicationならファイル/フォルダ、DBなどアプリケーションごとのデータ移行や、OSも含めたシステム全体の移行などを、工数をかけずに簡単に実施できます。移行直前まで移行元サーバを利用できるため、移行による業務中断を最小限にします。切り替えは、移行元の電源を落とし移行先サーバの電源を入れる 単純な作業だけで終了します。移行先として、仮想環境だけでなくクラウドも選択できますので、将来のクラウドへの移行計画にも対応ができます。

※対応可能なクラウドについては動作要件を参照ください。

こんなサーバ管理者におすすめ

- ▶ 環境の入れ替えや移行後の環境設定に多くの時間を割きたくない
- ▶ 移行作業時の業務中断をできるだけ短くしたい



データ保護・災害対策に なぜ「レプリケーション」が最適なのでしょう？

REASON

理由

1

簡単・手軽なレプリケーション。運用管理者の手間がかからない！

レプリケーションとは、稼働中の本番サーバのデータを、ほぼリアルタイムで他のサーバに複製する仕組みのことです。サーバ管理者にとって、レプリケーション最大のメリットは「導入後に手間がかからないこと」。本番サーバのデータに変更があれば、複製サーバにも随時変更がレプリケーションされます。バックアップ媒体を交換するなどの手間は必要なく、いつも通りサーバを使うだけでさらに既存環境はそのままに導入できるのもメリットです。時間やコストをかけられずにデータ保護が手つかずのサーバに最適なソリューションです。



自動複製
なので簡単、
手間いらず！

REASON

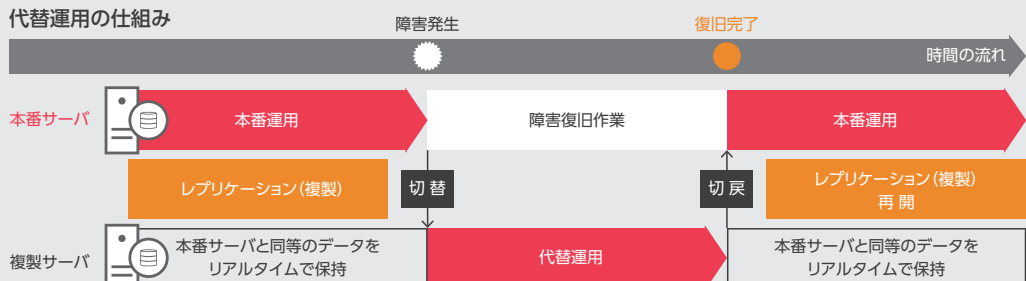
理由

2

万が一障害が発生した場合もユーザの仕事を止めない

万が一本番サーバに障害が発生した場合でも、データの参照先を複製サーバに切り替えるだけで、簡単に代替運用が行えます。本番サーバの復旧が完了すれば、複製サーバから本番サーバへスムーズに切り戻しが行えます。そのため、サーバの修復作業やリストア時間でユーザの業務を止めることがありません。

代替運用の仕組み



ユーザからの
クレーム
知らず！

REASON

理由

3

曜日や時間帯でネットワークの帯域幅を調整して、遠隔地にも安心転送

遠隔地へのデータ保護で最も注意すべきポイントは、拠点間を結ぶ回線です。専用線ではなく、業務でも利用している回線を利用してデータ転送を行うと回線を通るデータ量が増え、業務で必要なデータの転送にも支障が出てしまいます。運用を止めずに、回線の帯域幅を曜日や時間帯で制限する機能が備わっているため、業務時間中は利用する帯域を制限することでネットワークへの負荷を抑えることができます。詳細は無償実機トレーニングで体験ください。

両端サーバ間のレプリケーション中の帯域幅スケジュール

両端サーバ間のレプリケーション中の帯域幅スケジュールは、時間とサイズ（KB）によって設定されます。

両端サーバ間で、帯域幅を制限する1日のスケジュールを設定します。1つのスケジュールは、曜日と時間帯を指定します。

特定の時間帯に設定されているスケジュールは、スケジュールが適用される時間帯に適用されます。

曜日	時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
日曜日																									
月曜日																									
火曜日																									
水曜日																									
木曜日																									
金曜日																									
土曜日																									

☐ 日曜日の値をすべての平日に適用します。

帯域幅 (Kbps)

8K 64K 128K 192K 256K 512K 1024K 16384K 18432K 2688K

4096K 131072K 262144K 524288K 1048576K 2097152K 4194304K 8388608K

リセット 実行 キャンセル

帯域制御も
簡単！

無償実機トレーニング

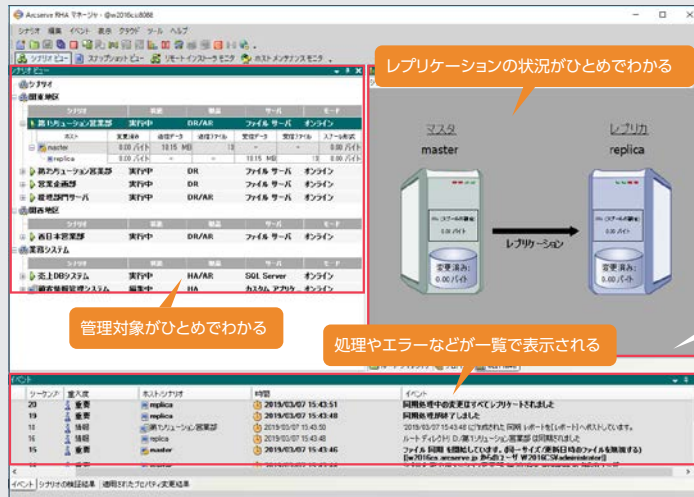
<http://arcserve.com/jp/jp-resources/seminar/>

帯域帯のスケジュール設定画面

レプリケーションの決定版「Arcserve Replication」

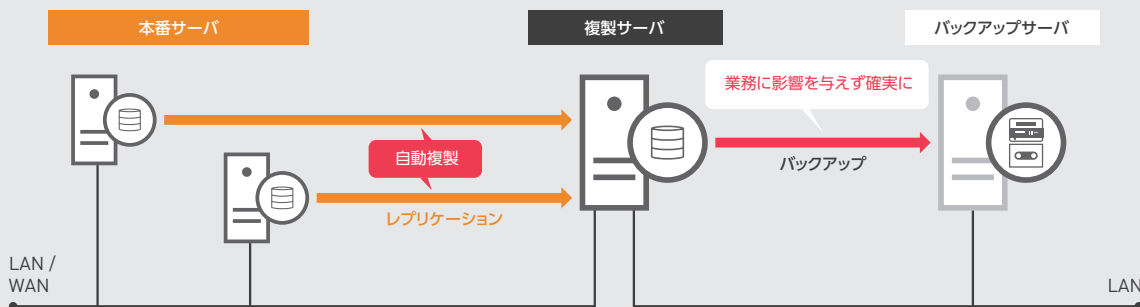
使いやすさに徹底してこだわった管理画面

Arcserve Replication/High Availabilityには、レプリケーションの状況がひとめでわかる各種の管理画面が備わっています。すべて日本語化されており、理解しやすい画面によって、管理者にストレスを与えず、スムーズな操作を実現できます。



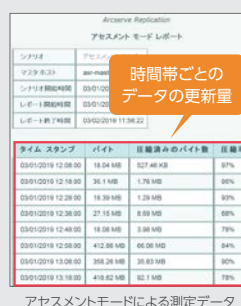
Arcserve® Backupと連携し、業務に影響を与えずバックアップ

Arcserve Replicationは、Arcserveのバックアップソフト、Arcserve Backupと連携する機能が備わっています。複製サーバからテープにバックアップできるので、災害対策拠点へテープを転送する手間を省くことができます。この場合、ユーザは本番サーバでバックアップを行う必要がないので、本番サーバへの負荷も軽減されます。



最適な回線速度を計るアセスメントツールで安心のWAN越え

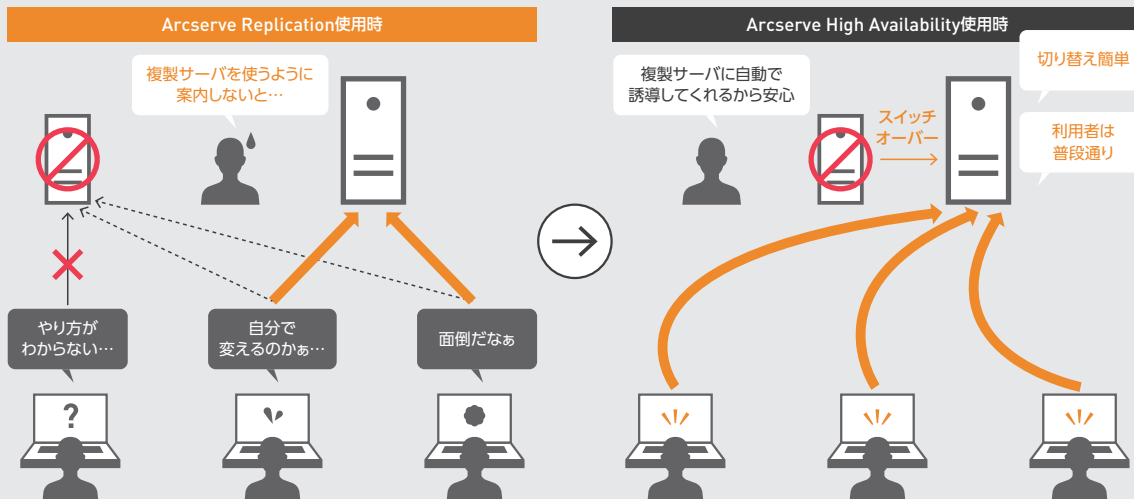
Arcserve Replication/High AvailabilityではLANに比べて低速で信頼性の低いWANを有効に活用するための数多くの機能を備えています。たとえば、アセスメントモードによって、時間当たりの変更量を測定することができます。この情報からレプリケーションに必要な帯域幅やディスク容量をあらかじめ見積ることができます。



切り替えを自動化する「Arcserve High Availability」

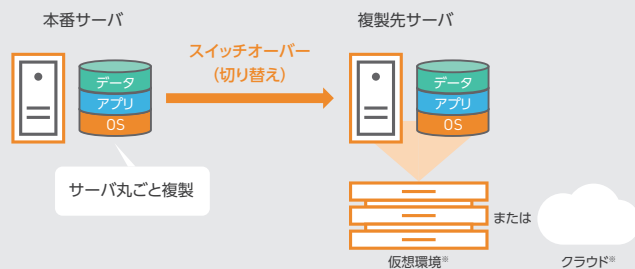
切り替えも簡単に! さらなる可用性を実現する「スイッチオーバー」

Arcserve High Availability には、複製サーバ側で常に本番サーバの状態をモニタリングし、本番サーバでの障害発生時に、自動的に切り替え作業を行う「スイッチオーバー機能」が備わっています。ユーザは複製サーバへ自動的に誘導されるので、障害を意識することなく利用できます。そのため、管理者の手間をかけることなく、実質的な停止時間を最小化できます。



フルシステム シナリオでサーバを丸ごと複製

フルシステム シナリオは、ファイル/フォルダやDBなどアプリケーションのデータだけでなく、OSも含めたシステム全体を丸ごとレプリケーションできるため、OSやアプリケーションなど各種設定をそのまま複製先マシンに引き継ぐことが可能です。また、災害や障害時には複製先の各種設定の変更作業を少なくし、簡単に切り替えて業務をすぐに再開できます。複製先は仮想環境やクラウド*を利用するため、物理環境から仮想環境、オンプレミスからクラウドへの移行にも利用できます。



*対応可能な環境については動作要件をご覧ください。

まだまだあるArcserve Replication/High Availabilityならではの魅力

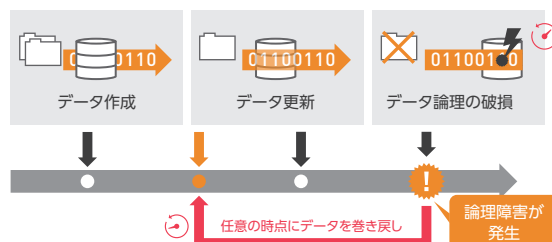
システムを止めることなく、本番さながらに 復旧手順を確認できる「Assured Recovery」

稼働しているシステムを止めることなく、複製先サーバで本番さながらの復旧訓練を実施できる「Assured Recovery (アシュアード・リカバリ)」が備わっています。



データベースの復旧に最適な「リワインド・テクノロジー」

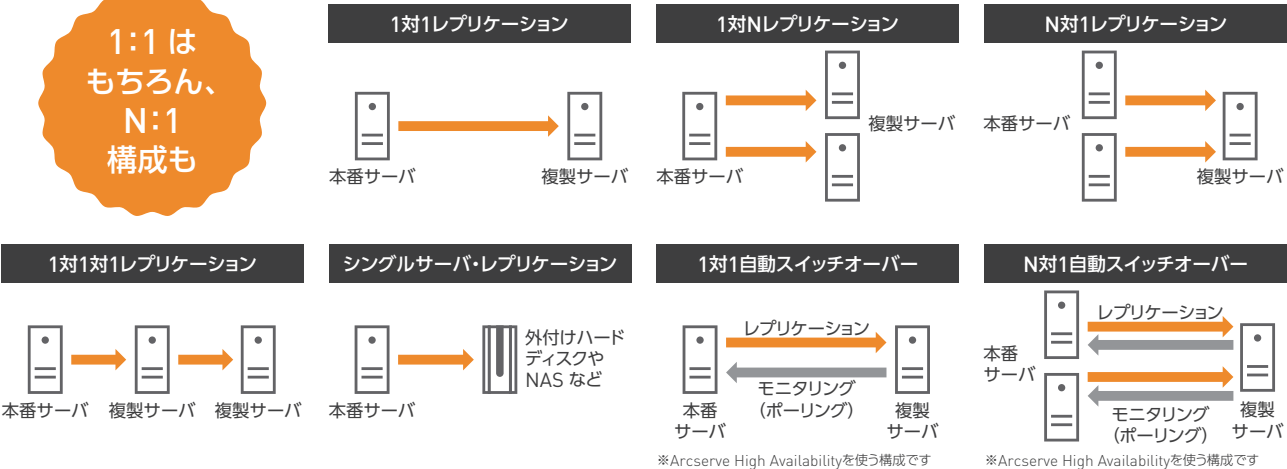
データベースなどの障害時に、時間を遡って、障害発生直前の正常データまで巻き戻してからリストアが行える「リワインド・テクノロジー」が備わっています。



構成例

Arcserve Replication でレプリケーションを行う場合、1対1の基本的な構成のほか、本番サーバ1台に対して複数台の複製サーバを用いる構成(1対N)や、複数台の本番サーバに対して複製サーバ1 台で対応する構成(N対1)など、柔軟な構成が可能です。さらに、Arcserve High Availability を用いて、自動スイッチオーバーを行う構成も可能です。

1:1 は
もちろん、
N:1
構成も



動作要件 詳細は弊社Webをご覧ください。

対応OS	対応アプリケーション
Windows Server, Windows Storage Server などに対応	Exchange Server, Microsoft SQL Server, Internet Information Services (IIS), Oracle Databaseなどに対応

価格 本価格表以外にアカデミックライセンスのご用意があります。

ビジネスの
安心を
お求めやすい
価格で!

製品名	パッケージ製品 ^{*1} (メンテナンス別)		ライセンスプログラム製品 ^{*2}			
			ライセンス+1年メンテナンス		ライセンス+3年メンテナンス	
	価格 (税抜)	総額 (税込価格)	価格 (税抜)	総額 (税込価格)	価格 (税抜)	総額 (税込価格)
ファイルサーバ専用版 ^{*3}						
Arcserve Replication for Windows	¥142,000	¥156,200	¥171,000	¥188,100	¥228,000	¥250,800
Arcserve High Availability for Windows		-	¥330,000	¥363,000	¥455,000	¥500,500
標準版						
Arcserve Replication for Windows						
Standard	-	-	¥287,000	¥315,700	¥396,000	¥435,600
Enterprise	-	-	¥548,000	¥602,800	¥756,000	¥831,600
Virtual Machines ^{*4}	1本ライセンス	-	¥145,000	¥159,500	¥200,000	¥220,000
	5本パックライセンス	-	¥433,000	¥476,300	¥597,000	¥656,700
	VM Protection per Host License ^{*5}	-	¥577,000	¥634,700	¥795,000	¥874,500
Arcserve Replication for Linux Server OS						
Linux Server OS	-	-	¥287,000	¥315,700	¥396,000	¥435,600
Virtual Machines ^{*4}	1本ライセンス	-	¥145,000	¥159,500	¥200,000	¥220,000
	5本パックライセンス	-	¥433,000	¥476,300	¥597,000	¥656,700
	VM Protection per Host License ^{*5}	-	¥577,000	¥634,700	¥795,000	¥874,500
Arcserve High Availability for Windows						
Standard	-	-	¥576,000	¥633,600	¥794,000	¥873,400
Enterprise	-	-	¥693,000	¥762,300	¥955,000	¥1,050,500
Virtual Machines ^{*4}	1本ライセンス	-	¥289,000	¥317,900	¥398,000	¥437,800
	5本パックライセンス	-	¥865,000	¥951,500	¥1,193,000	¥1,312,300
	VM Protection per Host License ^{*5}	-	¥865,000	¥951,500	¥1,193,000	¥1,312,300
Arcserve High Availability for Linux Server OS						
Linux Server OS	-	-	¥576,000	¥633,600	¥794,000	¥873,400
Virtual Machines ^{*4}	1本ライセンス	-	¥289,000	¥317,900	¥398,000	¥437,800
	5本パックライセンス	-	¥865,000	¥951,500	¥1,193,000	¥1,312,300
	VM Protection per Host License ^{*5}	-	¥865,000	¥951,500	¥1,193,000	¥1,312,300

※1 テクニカルサポートへお問い合わせいただくには、インシデントパックをご購入ください。テクニカルサポート (ジョイスサポートプログラム) の詳細はサポートページでご確認ください。 ※2 新規購入の際、ライセンスおよびメンテナンスの購入が必要です。掲載の価格は、ライセンスと1/3年メンテナンスの合計です。なお、ライセンスプログラム製品のメンテナンスにはメンテナンス期間中の製品アップグレードと、テクニカルサポート (平日 9:00-17:30) が含まれています。 ※3 データベースのレプリケーションや無停止テスト機能をご利用いただくには、標準版をご購入ください。 ※4 仮想マシン (ゲストOS) に本製品をインストールする場合に利用するライセンスです。 ※5 仮想ホスト単位のライセンスで、仮想ホスト上の仮想マシンの数に制限はありません。



arcserve®

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
Copyright © 2025 Arcserve (USA), LLC. All rights reserved.

Arcserve Japan

お問い合わせ
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング
お問い合わせ窓口: Arcserveジャパンダイレクト (0120-410-116)
JapanDirect@arcserve.com
WEBサイト: <https://arcserve.com/jp>
※記載事項は変更になる場合がございます。 2025年10月現在

Arcserve Japan
WEBサイト

